

「江戸時代の日本人はどのような和蘭語を学んだか」

岡田和子

江戸～明治期の日本人はどのようななどのような語学を学んだか、と言うことでお話をさせて戴きたく思います。

私たちは何気なく英文法、フランス語文法、ドイツ語文法とかと言っておりますが、欧州でこれら各国文法が成立したのは、ルネッサンス～大航海時代の頃。ところが、このときの文法は、私たちが知っている現代の文法と内容的に異なっていました。たとえば、英語を例にとると、**loved** という普通の過去形が、現在と関係する「過去の現在」で、**have loved** が現在とは何の関係もない「孤立過去」「真の過去」だったのです。

江戸時代の日本人は、このような、現代とは逆転している文法を学んでいたのです。蘭学が日本中に広まった安政年間の文法も、このような逆転文法でした。

ところが、欧州に新たな言語学の波が起こり—何が起こったのでしょうか—、**have loved** がそれが現在と関係する時制だということになってまいります。この動きがわが日本で顕在化するのには、ちょうど明治維新の頃で、過去形と現在完了形が現代のようになった最初は、明治 17 年の英語でした。ドイツ語の時制が切り替わるのは、英語よりさらに 10 年後のことになります。

このお陰で、明治 30 年くらいまでの文法は、過去形と現在完了形が混乱しています。ですが、これは、当時の人が誤解したわけではなく、当時の文法が変動期だったためなのです。